

TAOYAKA Program
for creating a flexible, enduring, peaceful society

博士課程前期・後期一貫

たおやかで平和な共生社会創生プログラム

平成25年度 文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」複合領域型（多文化共生社会）採択



オンサイト・リバーズイノベーションを
推進するリーダーの育成



広島大学

た
お
YAKA
や
か

たおやかで平和な共生



越智光夫学長

越智光夫学長からのメッセージ

「自由で平和な一つの大学」を建学の精神とする広島大学は、「平和を希求する精神」「新たな知の創造」「豊かな人間性を培う教育」「地域社会・国際社会との共存」「絶えざる自己変革」の5つの理念を掲げ、全国でも有数の総合研究大学として発展を遂げています。

現代社会は科学技術が目覚ましく進歩する一方で自然災害の多発や貧困、地域紛争など多くの困難を抱えています。こうした課題に挑戦し、世界の平和と持続的な発展に貢献するために、本学は2014年度から、博士課程前期・後期を一貫した学位プログラム「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」を開設しました。

このプログラムは従来の学問分野・研究領域の枠組みを超えて新たな知の枠組みを創造できる人材を育成し、広く産官学にわたるグローバルリーダーとして社会に送り出すことを目的としています。教育や医療などの基本的なサービスに恵まれない条件不利地域の抱える課題解決を図るため、新しい技術やアプローチを開発・実践し、多文化共生に貢献するリーダー育成を目指します。

「たおやか」とはしなやかな様子を表す美しい言葉です。逆境にひるむことなく、たおやかな未来を切り開く志を持つ学生の参加を期待しています。

宮谷真人理事・副学長（プログラム責任者）からのメッセージ

私たちが2014年4月から展開している「たおやかプログラム」は、広島大学が強みを持つ人文・社会系の分野と科学技術系分野を融合し、幅広い視野と社会に必要とされる専門性を備えた人材を育成します。そのために、地域独自の社会と多様な文化を深く理解し、それを踏まえて地域が抱える課題を抽出し、その克服に必要な先端科学技術をその地で見出し開発して、社会に実装する教育を実施します。

さらに私たちが重要視していることは、その教育が学生主導で展開されることです。教員が専門知識を伝達するのではなく、フィールドの中で学生自身が地域の課題を体感し、その解決方法を技術的に構築し、それを地域社会に組み込む方途を探究する、「学生提案支援型教育」です。とりわけ、人文・社会系、先端技術系、社会工学・開発科学系といった異分野の学生がチームを組んで、条件不利地域の抱える課題解決に取り組む「オンサイト・チームプロジェクト」では、異種間格闘技にも似たタフな経験を通して、人間的な成長を遂げてもらうことになるでしょう。その過程で、大学教員や豊富なキャリアを有するプロフェッショナルメンターは、学生自身の成長を支援する役割に徹します。

このプログラムは、誰かが作ってくれた舗装道を快適に走ることはならないでしょう。しかし、教員スタッフとともに学生の皆さんが切り拓いていく道は無限の可能性につながっています。高い志と気概を持った学生のプログラムへの参加を期待しています。



宮谷真人プログラム責任者

藤原章正教授（プログラムコーディネーター）からのメッセージ

今日の地球上では、グローバル化、情報化、地球環境問題など、社会に多大な影響を与える変化が激しい勢いで進行しています。個々の地域社会は大なり小なりこれらへの対応に迫られていますが、中にはこの大きな流れに翻弄され存亡の危機に瀕している社会も少なくありません。それゆえ、多文化が共生するには、その前提として地球上の個々の地域社会が尊重され、自律性と持続性を獲得することが不可欠と考えます。

本プログラムが創生を目指すのは、このような課題に応える「たおやかで平和な共生社会」です。このような共生社会を創出するには、地域の文化を起点として、そこから課題を見出し、技術創生を行い、その成果が社会に実装され、そこから文化創生へと発展するという、文化・技術・社会が一体となった連鎖的發展の実現が必須と考えます。

本プログラムの教育の軸となるのは、オンサイト教育とリバーズイノベーションです。オンサイト教育では、多くの課題を抱えている条件不利地域を対象とします。その逆境が教育にとって絶好のフィールドとなると考えるからです。具体的には、貧困・格差に悩む南アジア地域と過疎・高齢化が進む日本の中四国地域をとりあげます。もう一つの軸であるリバーズイノベーションとは、文化が牽引する地域発のイノベーションです。これにより、ボトムアップ型の価値創生・商品開発・制度設計が行われれば、条件不利地域の活性化に寄与することでしょう。



藤原章正プログラムコーディネーター

社会創生プログラム

博士課程教育リーディングプログラム

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的とするものです。

たおやかプログラムの基本理念

今日のグローバル社会は、経済の成長期と成熟期の縁辺に位置する条件不利が、共存・共生することを受け入れる「たおやかで平和な共生社会」であることが求められています。そして、現代社会を支える、先進国で開発された先端科学技術は、先進国だけではなく、途上国の社会を劇的に変貌させる可能性を持っています。私たちは、時間と空間の広がりによって多様に育まれた地域独自の社会と文化から発し、必要な先端科学技術をその地で見出し（開発し）、育む（適用・実装する）、文化が先導する科学技術の循環こそが、条件不利地域が抱える課題を克服し、たおやかで平和な共生社会を創生する道筋であると考えます。私たちは、困難な課題を抱える地域に寄り添い、ニーズから発想し、先端科学技術の持つこうした可能性を広げ、適切な先端科学技術を、確実にオンサイト・ソリューションへと適用・実装する共生社会創生のリーダーを育成します。

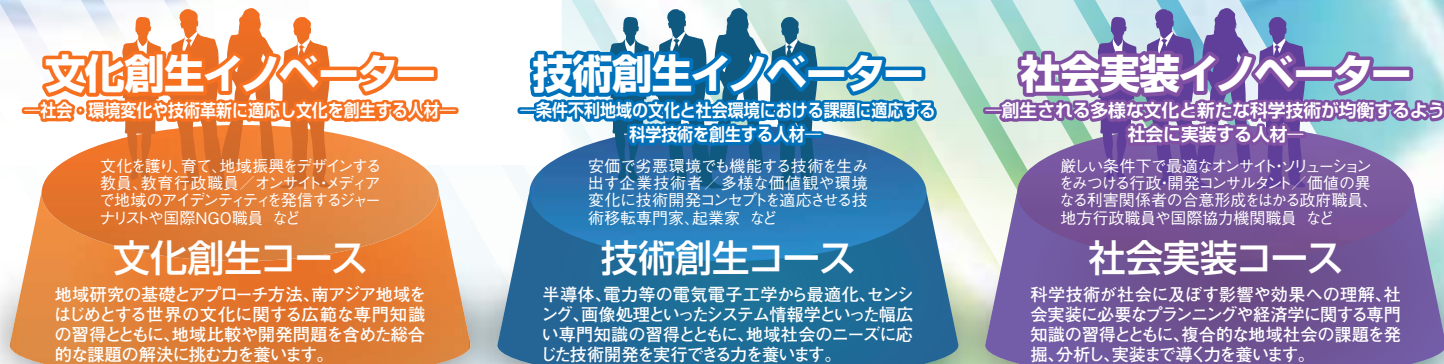
学生はたおやかプログラムの修了要件に加え、所属研究科専攻の修了要件単位を修得する必要があります。

文化・技術・社会 オンサイト・リバーズイノベーションの推進リーダー



3つのコースで養成する未来のイノベーター

学生は、学部までの専門に拘らず、志望理由とキャリアプランに応じて、広島大学の高い実績をベースとする3つのコース（文化創生コース、技術創生コース、社会実装コース）かつ特定の研究科に所属し、高度な専門能力を身につけます。そして、3つの異なるコースの学生がチームを組み、文化創生、技術創生、社会実装といった多角的な切り口を持って、条件不利地域が直面する多文化共生課題の解決に挑みます。



グローバルリーダーに相応しい自主性、実行力、多角的思考力、創造力を身につけ、オンサイト・リバーズイノベーションを推進するリーダーとして広く世界で活躍し、多文化共生に貢献できる人材を国内外へ送り出す

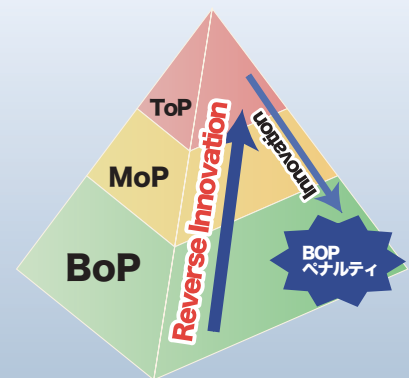
たおやかで平和な共生社会の実現 ー広島大学の新たな平和教育の実践ー

「たおやかで平和な共生社会」の実現は、平和を希求する精神を原則に、平和教育に取り組んできた広島大学こそが取り組まなければならない課題です。様々な課題に柔軟に対応できる社会、文化を伝承し、創造する永続的な社会、人々が安心して暮らせる社会の実現を目指し、新たな教育プログラムに取り組めます。



オンサイト・リバーズ イノベーション

小さなソーラーパネルのわずかな電力を、あかりに変換するLED電球の普及は、途上国の単調で危険な夜を、活気ある有意義な時間へと変えています。先進国の先端科学技術には、期せずして、途上国の社会を劇的に変貌させる可能性があります。オンサイト・リバーズイノベーションは、これまでの技術シーズ型イノベーションとは逆方向の、地域文化・社会の課題から発想する、社会ニーズ型のリバーズイノベーションであり、それぞれの地域の多様な課題に対応するオンサイト・イノベーションです。



条件不利地域でのオンサイト教育の実施

貧困・格差の連鎖から抜け出せない社会、限られた資源を奪い合う紛争社会、先祖から継承した有形・無形文化の淘汰・消失を許容する社会、共助・互助サービスを満足に受けられない孤立社会、こうした条件不利地域の社会においてこそ、オンサイト・リバーズイノベーションが必要です。本プログラムでは、インドを中心とした南アジアと、日本の中山間地域の二つの条件不利地域を教育フィールドとします。そこには、多くの多文化共生課題が存在し、先進国と途上国が共通して抱える課題も少なくありません。学生は、条件不利地域の制約条件のもとで、分野融合の知識を総動員して、多文化共生課題の解決に挑みます。



習得する能力

多角的思考力

人文社会分野と科学技術分野の学識に基づき、地域が抱える具体的課題からフィールド・デマンドを俯瞰し、多様な視点・アプローチから実行可能な解決策を柔軟かつ迅速に見出だす能力

自主性

与えられたフィールド・デマンドに単にソリューションを提供するだけではなく、地域社会において文化や技術が双方向に高め合う新たなたおやかな共生社会の枠組みを自ら提案し、創生する能力

実行力

異なるバックグラウンドを持つ集団組織の中で解決策を実行する具体的計画を企画立案し、代替案を客観的に分析・評価し、他者と交渉し、チームを統括し、倫理観をもって成し遂げる能力

創造力

条件不利地域の制約条件のもとで、分野融合の知識を総動員して、フィールド・デマンドに適応した科学技術やそれを支える政策・制度を開発し、新たな地域文化の創生を誘う能力

カリキュラム

提案支援型教育

本プログラムは、多様化する地域社会のフィールド・デマンドに機動的に対応できる全学横断型の教育コースとオンサイト教育による学生提案支援型教育を提供します。

カリキュラム概要

本プログラムは、たおやかで平和な共生社会の創生を目指し、既存学問分野の枠にとらわれず、大学（オンキャンパス）と現場（オンサイト）の教育を通じて、広島大学の「平和を希求する精神」を強く抱き、文化共生、技術適応、社会変革といった切り口から多文化共生課題に挑戦する人材の育成に取り組んでいます。本プログラムは、異分野協働でのオンサイト教育を中心とすることを大きな特徴としています。また、多文化共生社会の創生にむけたイノベーションリーダーとして活躍するために必要な力を、従来の専門分野に大きく依存せずに、効率的に身につけることができる構成をとっています。平和を希求するマインドを教育する「平和共生基礎科目」を基礎として、リバーサイノベーションに必要とされる専門知識を習得する「リバーサイノベーション専門科目」、異分野コース協働での実践型オンサイト教育を行う「多文化共生実践科目」、専門知識に基づきオンサイト・リバーサイノベーションに対する実践研究を行う「リバーサイノベーション実践科目」から構成されています。学生はたおやかプログラムの修了要件に加え、所属研究科専攻の修了要件単位を修得する必要があります。

（博士課程前期は 30 単位、博士課程後期は 10～16 単位の修得が必要ですが、本プログラムの修了要件と科目が重複している場合があります）

オンサイト教育

オンサイト・コースローテーション(D1)

学生は、文化創生、技術創生、社会実装の研究現場において日帰りのオンサイト見学を行います。現地で成功例を学ぶとともに、地域の抱える課題を見出し、その解決策を探ります。また、この活動を通してチーム形成の方法について学びます。

オンサイト研修(D1～D2)

日本または海外の条件不利地域において 7 日間程度のオンサイト研修を行います。学生は研修を通して、地域社会固有の文化特性と技術的課題克服の基本的考え方や対処姿勢を修得します。さらに、多文化共生課題を経験し、異分野の学生とチームとして協力しながら成果事例をまとめます。

インターンシップ(D1～D5)

学生は、連携する企業、国際機関、NGO など、1ヶ月以上のインターンシップに参加します。学生は、インターンシップを通して、オンサイトで課題を見だし、その課題解決のあり方、自らが大学で学んでいる知識を実践的・総合的に活かす方を学びます。

オンサイト・チームプロジェクト(D3～D4) (選択必修科目)

学生がチームを組み、産学官やフィールドネットワークの協力を得ながら、独自の発想のもとに、オンサイト・チームプロジェクトを企画、実践します。プロジェクトでは、多文化共生課題に対して、異なるコースの学生が、お互いの専門知識を持ち寄って、多文化共生課題の解決に挑みます。



オンサイトコースローテーション
(東広島市小谷地区)



オンサイト研修 (インド)



オンサイト・チームプロジェクト (北広島町)

イベント

開講式



国際シンポジウム

途上国や日本の過疎地といった困難を抱える地域に寄り添い社会を望ましい方向へと導くため、第一線で活躍している専門家を招き共生社会について学び、考えるシンポジウムを開催しています。



国際シンポジウム
〔「地球理解のためのオンサイト教育：大学院プログラムとIYGU2016」〕

たおやかプログラムセミナー

教材開発活動と多文化共生課題の情報交換を目的として、国内外の関連機関から講師を招き、「たおやかプログラムセミナー」を開催しています。



分野融合セミナー

キャンパスを飛び出し、学生が現場で実践されている最先端の技術に触れる機会を提供しています。



大分県別府市 地熱発電所見学



広島県広島市 原爆ドーム健全度調査見学

プログラム担当者 アカデミックメンター

文化創生コース		
氏 名	所 属	専 門
友澤 和夫	文化創生コース主任、人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・教授 併 現代インド研究センター長 併 文学部長	人文地理学
河西 英通	森戸国際高等教育学院・特任教授	日本史
Funck, Carolin	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・教授	観光地理学
Maharjan, Keshav Lal	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・教授	南アジア地域研究
関 恒樹	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・教授	文化人類学
中村 平	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・教授	人類学・日本学
後藤 拓也	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・准教授	人文地理学
笛吹 理絵	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・助教	観光地理学
熊原 康博	人間社会科学研究所・教育科学専攻・准教授	自然地理学
中矢 礼美	人間社会科学研究所・教育科学専攻・准教授	比較国際教育学
中空 萌	人間社会科学研究所・教育科学専攻・講師	文化人類学
岡橋 秀典	奈良大学・文学部・教授、広島大学・名誉教授	人文地理学
外川 昌彦	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授	文化人類学
陳 林	大学共同利用機関法人人間文化機構・研究員 併 現代インド研究センター・特任助教	地理学
石川 菜央	東洋大学・社会学部・准教授	地理学
太田 淳	慶応義塾大学・経済学部・准教授	歴史学

技術創生コース		
氏 名	所 属	専 門
石井 抱	技術創生コース主任、先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	情報センシング・画像処理
辻 敏夫	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	生体工学
西崎 一郎	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	システム工学
餘利野 直人	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	電力システム工学
高橋 勝彦	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	経営工学
山本 透	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	制御工学
栗田 雄一	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	ハプティクス・ヒューマンインタラクション
東 清一郎	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	半導体工学
角屋 豊	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	光エレクトロニクス
高木 健	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	ロボット工学
造賀 芳文	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・准教授	電力システム学
加藤 純一	統合生命科学研究科・統合生命科学専攻・教授	応用微生物学・生物工学

社会実装コース		
氏 名	所 属	専 門
藤原 章正	プログラムコーディネーター 先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	交通工学
金子 慎治	社会実装コース主任、人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・教授 併 国際センター長	環境資源経済学
張 峻屹	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	都市・交通計画
河合 研至	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	コンクリート工学
松村 幸彦	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	エネルギー学
大橋 晶良	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・教授	水環境工学
久保田 徹	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・准教授	建築都市環境工学
Tran Dang Xuan	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・准教授	農業生物学・植物科学
塚井 誠人	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・准教授	地域計画・統計解析
李 漢洙	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・准教授	海岸・海洋工学
力石 真	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・准教授	都市工学
市橋 勝	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・教授	経済学
川野 徳幸	平和センター長 併 人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・教授	平和学
吉田 雄一郎	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・教授	開発マクロ経済
柿中 真	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・教授	国際経済学
後藤 大策	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・准教授	応用ミクロ経済学
櫻井 里穂	教育開発国際協力研究センター・准教授、 人間社会科学研究所・教育科学専攻	教育開発・国際比較教育学
川田 恵介	東京大学・社会科学研究所・准教授	経済学

氏 名	所 属	専 門
宮谷 真人	プログラム責任者、理事・副学長（教育担当）	認知心理学
相田 美砂子	特任教授・学長特命補佐	量子化学・生物物理
渡邉 園子	先進理工科学研究科・先進理工科学専攻・准教授	生態学
Niraj Prakash Joshi	人間社会科学研究所・人文社会科学専攻・准教授	条件不利農村の地域研究

プロフェッショナルメンター

氏 名	所 属
Victorino Aquitania	ICLEI・東南アジア地域事務所長
Nurjahan Begum	元グラミンシャクティ・マネージングディレクター
Ram Prasad Dhital	ネパール電力規制委員会・委員
David Eaton	テキサス大学オースティン校リンドンジョンソン公共政策大学院・教授
Prakash Chandra Tiwari	クマオン大学地理学科・教授
Hassan Virji	元メリーランド大学・教授
岡本 卓慈	株式会社計測リサーチコンサルタント・代表取締役会長
川本 一之	株式会社中国新聞社・特別顧問
白川 勝信	広島県北広島町教育委員会・主任学芸員
西宮 宜昭	株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル・上級テクニカルアドバイザー
花木 出	中国経済産業局・局長
藤山 浩	一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所・所長、 島根県立大学連携大学院・教授
三角 幸子	独立行政法人国際協力機構 中国国際センター・所長
森山 昌幸	株式会社バイタルリード代表取締役
山田 守	マイクロンメモリジャパン株式会社 ヒューマンリゾーシースジャパン グローバルモビリティマネージャー
羅 黄順	Smart Sensys・社長

学位・修了要件

学位

学生が所属するコースに応じて、以下の学位が授与されます。また、授与される学位記には、「本学大学院〇〇研究科〇〇専攻の博士課程（たおやかで平和な共生社会創生プログラム）を修了したので博士（「学位の種類」）の学位を授与する。」と付記されます。



博士(文学)、博士(国際協力学)、
博士(学術)、博士(教育学)



博士(工学)、博士(学術)



博士(学術)、博士(工学)、
博士(国際協力学)

修了要件

本プログラムは、本プログラム及び所属研究科所定の単位修得かつQualifying Examination (QE)に合格した上で、英文記述された学位論文の提出により、学位授与の申請を可能とします。リーディングプログラム機構は、本プログラム修了要件を満たすと判断した場合に、本プログラム担当教員及び学外審査委員から成る審査委員会を設置し、学位論文審査及び英語による口頭試問を含めた最終試験を実施します。

Qualifying Examination 1 (博士論文研究基礎力審査)

3年次進学時に、オンサイト・リサーチプロポーザル等により、リバースイノベーター候補者として十分な資質があるかを中間審査します。

Qualifying Examination 2 (博士候補者試験)

4年次に、博士論文の概要の審査により、革新性、分野融合性、共生社会への貢献度、実現可能性、フィールドワーク・実験の妥当性を評価します。

Qualifying Examination 3 (博士論文試験)

5年次にリーディングプログラム機構が組織する博士学位論文審査委員会が主催する公聴会で論文を発表し、英語による口頭試問も含めた質疑に応答する必要があります。

就学に要する経費

・ 入学科 282,000 円 ・ 授業料 (年額) 535,800 円

※上記の金額は、2020年3月現在のものであり、改定が行われる場合があります。

支 援

修学上必要となる経費について、本プログラムが定める範囲において支給します。

- 奨 学 金** 広島大学大学院博士課程リーダー育成プログラムエクセレント奨学金
プログラム履修生より、成績優秀者（3名）に対し奨学金（月額5万円）を支給します。
（学業成績及び顕著な業績により、学期毎に選考）
- 授 業 料 免 除** 広島大学大学院博士課程リーダー育成プログラム授業料免除
成績優秀かつ経済的に困窮しているプログラム履修生に対し、学期毎に授業料の全額または半額を免除します。
（学業成績及び経済困窮度により、学期毎に選考）
- 国際学会発表支援** プログラム履修生を対象に、国際学会での発表（口頭発表またはポスター発表）のための旅費と学会参加費を選考のうえ、全額または一部を支給します。
- インターンシップ支援** プログラム履修生を対象に、インターンシップの旅費を審査のうえ、全額または一部を支給します。

※ 上記の経済支援は、2020年3月現在のものであり、変更が生じる場合があります。

学生募集に関する最新の情報は、たおやかプログラムホームページにてご確認ください。

<https://taoyaka.hiroshima-u.ac.jp/>

〒739-8529 東広島市鏡山1丁目5番1号213号室

広島大学たおやかプログラム事務局

Tel : 082-424-6152 E-mail : taoyaka-program@office.hiroshima-u.ac.jp